測定ソフト 個人版発売

認知機能レベル ５分で数値化

ベンチャー企業のトータルブレインケア（神戸市中央区）は、認知機能を測定する事業所向けソフト「脳活バランサー Ｃｏｇ Ｅｖｏ（コグエボ）」を一般向けに発売した。これまで医療機関や介護施設、薬局などに供給してきたが、個人が自宅でも気軽に使えるようにして、多くの人に認知機能低下の早期発見と進行の予防に役立ててもらう。（長尾亮太）

「脳活バランサーＣｏｇＥｖｏ」の表示端末を持つトータルブレインケアの河越眞介社長＝神戸市中央区港島中町４

中小企業 前へ

が、17年3月にクラウド化した。インターネットを通じて常に内容を更新できるとともに、測定結果のビッグデータをもとに年齢ごとの平均点が分かるため、機能低下の予兆なども把握しやすくなるという。

施設介護だけでなく、在宅ケアのニーズが高まっていることから、同ソフトを個人向けにも販売することにした。創業者の河越眞介社長は「新しい個人版が、認知機能の把握と対策を立てることに役立てばうれしい。資金調達を強化して、ソフトをさらに充実させたい」と話している。

神戸の「トータルブレインケア」

「進行予防に役立てて」

同ソフトは、元来捉えにくい認知機能レベルを数値化したのが特長。本人が機能を回復するきっかけにしたり、周囲が機能低下に伴うリスクに備えたりできるという。

具体的には、空間認識力▽記憶力▽計画力▽注意力▽見当識―の五つの指標で「4色のライトが光った順番を再現」「複数の図形の中から同じものを選択」など12種類の作業をこなしながら測定する。例えば、空間認識力や注意力の評点が低ければ、転倒リスクが高いため、事前に段差や出っ張りに目印を付けるなどの対策を講じやすくなる。タッチパネル式のパソコンやタブレット端末などを使い、基本作業であれば5分間で測定できる。

同ソフトは当初、情報端末に取り込むタイプだった

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。